

しばたしかんどうかんやしきあと

## 22. 柴田氏甘棠館屋敷跡

所在地：敦賀市市野々

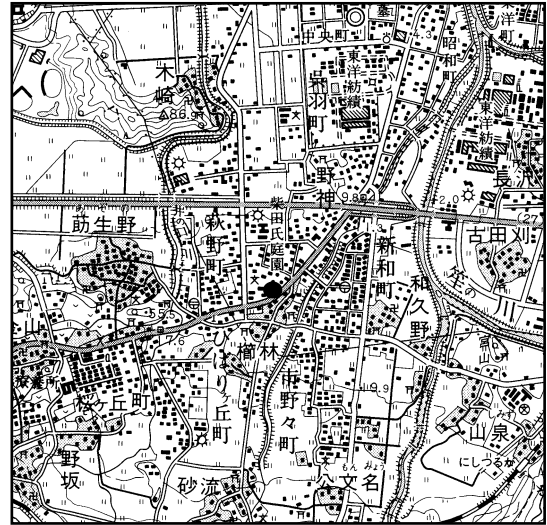
調査原因：史跡整備

調査期間：平成24年2月27日～3月30日

調査主体：敦賀市教育委員会

調査面積：約171㎡

時代：江戸時代～現代



位置図 (S = 1 / 50,000)

**調査の概要** 柴田氏甘棠館屋敷跡は敦賀平野を南北に縦断する黒河川の扇状地端の中央部に位置し、支流である助高川に隣接する地帯に所在します。遺跡内には国指定名勝柴田氏庭園が所在していましたが、平成19年に柴田氏屋敷全体に名勝指定範囲が拡大され、庭園を含めた屋敷地内全体の整備を行うことになりました。

柴田氏屋敷は江戸時代前期の寛文年間（1661～1672）から市野々地区の新田開発の拠点として、豪農である柴田権右衛門により整備されました。貞享（1684）頃と推測される絵図（図1）にはまだ庭園はなく、道場や周囲に巡る周溝、長屋門などが描かれています。しかし現在の柴田氏甘棠館屋敷跡には、長屋門とその両側の周溝はなく、道場、母屋も存在しません。今後名勝柴田氏庭園を整備していくうえで、これらの建物施設の存続時期や規模、また屋敷地の外周の確認をする必要があることから、最も古い柴田氏屋敷の様子を現した貞享頃の絵図を基に、トレンチ調査を行いました。

### 遺構 周溝 区画溝

絵図では長屋門、現在は冠木門となっている付近で、埋没した周溝が確認できました。これは絵図の周溝と一致するものでしたが、溝の間に当たる位置に所在したはずの長屋門の遺構は検出されませんでした。また屋敷地の外周に当たる部分において、現代の遺物を含む区画溝が検出されました。この溝の埋土からはビニールなどが混入していましたが、溝の下層に一段階古い溝がある可能性があり、今後の調査に期待されます。

### 遺物 近現代陶磁器、瓦

遺物は最近のごみを含み、特に江戸時代などのまとまりのある遺物は出土しませんでした。

**まとめ** 今回の調査では当初の周溝と考えられる遺構が確認できたのが大きな成果です。次年度からは、遺構の時期や屋敷地割のより具体的な解明を目指したいと考えます。

（中野 拓郎）



図1 市野々新田絵図 貞享頃 (推定)

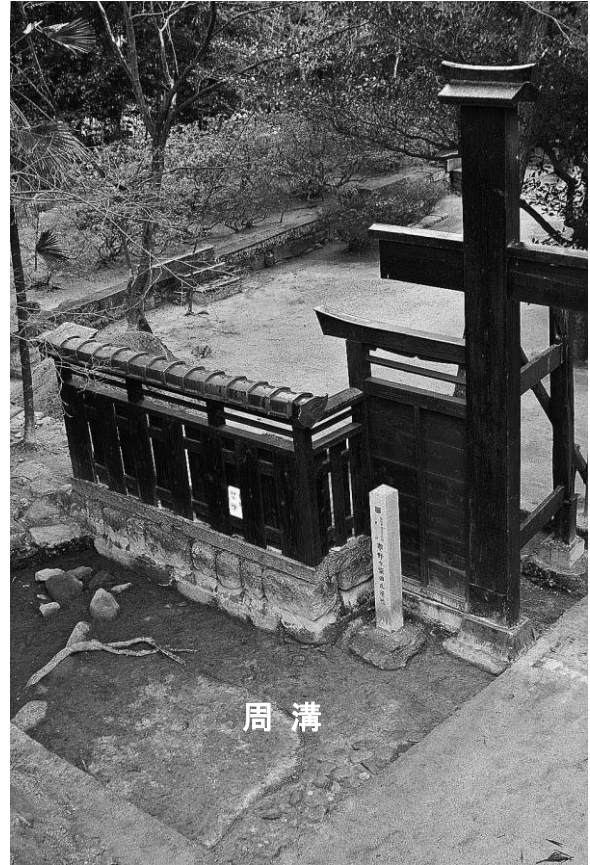


写真1 屋敷正面周溝検出状況 その1



写真2 屋敷正面周溝検出状況 その2